

# 第 681 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時：2022年5月14日（土） 午後2時00分

来場開催会場：飯田橋レインボービル7階大会議室

（新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3260-4791）

ライブ配信URL：

<https://us06web.zoom.us/j/86572604214?pwd=YjRub2RWMVVvSXE4SVA0dDM3SIRqQT09>

ミーティングID：865 7260 4214

パスコード：q73TRN



\* 教育講演の聴講単位につきましては、当日来場にて聴講いただきました方に配布させていただきます。  
(オンデマンド配信は実施いたしません。)

今年度は来場及びライブ配信での開催とさせていただきます。（新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては来場開催を中止する場合がございます。）  
ライブ配信の詳細、今後の開催に関しましてはホームページやプログラムにてご案内させていただきますのでご確認ください。

なお、昨年度の教育講演は引き続きオンデマンド配信と聴講単位の付与を行います。第677回講話会教育講演のオンデマンド配信のご案内は本プログラムに掲載しておりますのでご確認ください。

\* 次回以降開催予定日

2022年6月11日（土）（来場（飯田橋レインボービル7階大会議室）+ライブ配信の予定）

2022年7月23日（土）（来場（飯田橋レインボービル7階大会議室）+ライブ配信の予定）

2022年9月10日（土）（来場（飯田橋レインボービル7階大会議室）+ライブ配信の予定）

世 話 人

プログラム係 杏林大学 小児科（0422-47-5511） 宮田 世羽

会 場 係 日本大学 小児科（03-3972-8111） 岡橋 彩

事 務 局 佐藤企画（048-706-7196）（FAX）048-671-1796

e-mail：jpstokyo-office@ab.auone-net.jp

東京都地方会HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>

# 第 681 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:45

座長 船木 孝則 (国立成育医療研究センター感染症科)

## 1) *Achromabacter xylosoxidans* 菌血症の 1 健常乳児例

○西澤会美奈、宮奈 香、渡邊 康博、大石 芳久 (日本赤十字社医療センター小児科)

*Achromobacter xylosoxidans* は環境中に遍在する多剤耐性のグラム陰性桿菌で免疫能低下患者に医療関連感染症を引き起こす。今回我々は基礎疾患のない 2 か月男児の *A. xylosoxidans* 菌血症の 1 例を経験した。健常乳児の院外感染は極めて稀であり治療経過や感染経路について文献的考察を交えて報告する。

## 2) 難治性喘息として加療されていた肺結核の 1 例

○村崎 亘<sup>1)</sup>、福澤 志保<sup>1)</sup>、野竹慎之介<sup>1)</sup>、松本 怜<sup>1)</sup>、鈴木 令奈<sup>1)</sup>、岡部 史郎<sup>1)</sup>、久保田 淳<sup>1)</sup>、木下美沙子<sup>1)</sup>、斎藤 亮太<sup>1)</sup>、堀向 健太<sup>1)</sup>、清水 青葉<sup>2)</sup>、宮川 知士<sup>2)</sup>、高畠 典子<sup>1)</sup> (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)<sup>1)</sup>、(東京都立小児総合医療センター呼吸器科)<sup>2)</sup>

13 歳女子。祖母に結核の既往があった。2 年前から咳嗽を認め、近医にて難治性喘息として加療されていた。2 か月前から倦怠感と微熱が出現し、胸部 X 線にて両側浸潤影を認めたため紹介受診した。胸部 CT で空洞病変を認め、喀痰塗抹陽性、抗酸菌培養で *Mycobacterium tuberculosis* を検出し肺結核と診断した。慢性咳嗽の診療においては結核も常に念頭におく必要がある。

## 3) 沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチンに非含有の血清型 10A による侵襲性肺炎球菌感染症の 1 乳児例

○本多 加奈<sup>1)</sup>、大根麻梨奈<sup>2)</sup>、出納 達也<sup>1)</sup>、吉田百合香<sup>1)</sup>、上條 香織<sup>3)</sup>、金澤 建<sup>3)</sup>、松橋 一彦<sup>3)</sup>、阿部 祥英<sup>3)</sup> (昭和大医学小児科)<sup>1)</sup>、(同大学 江東豊洲病院)<sup>2)</sup>、(同大学 江東豊洲病院こどもセンター)<sup>3)</sup>

2 か月男児。沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13) を 1 回接種していたが、発熱を契機に入院し、侵襲性肺炎球菌感染症 (IPD) と診断された。血液培養検査で分離された肺炎球菌の血清型は 10A で PCV13 に非含有の血清型であった。本邦では PCV13 に非含有の血清型の IPD が増加しており、その発症には注意が必要である。

## 4) 汎発性帯状疱疹を発症したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群

○村越 未希<sup>1)</sup>、宇田川智宏<sup>1)</sup>、中溝 智也<sup>1)</sup>、金森 透<sup>1)</sup>、多田 憲正<sup>2)</sup>、金澤あずさ<sup>3)</sup>、森尾 友宏<sup>1)</sup> (東京医科歯科大学小児科)<sup>1)</sup>、(土浦協同病院小児科)<sup>2)</sup>、(東京医科歯科大学 皮膚科)<sup>3)</sup>

ネフローゼ症候群の 2 歳男児。初回再発時にステロイド抵抗性となり、シクロスポリンを開始した。開始後 7 日目に左手掌の腫脹と水泡が出現し前腕、上腕、背部へと広がり汎発性帯状疱疹と診断した。水痘ワクチンは 2 回接種歴があった。基礎疾患による低 IgG 血症と免疫抑制薬の使用で液性免疫および細胞性免疫不全の状態であったことが帯状疱疹を併発したと考えられる。

第2グループ 14:45—15:05

座長 本田 聖子 (杏林大学小児科)

5) 出生直後から血尿を呈し超音波検査で膀胱内腫瘍が疑われた新生児例

○平松 直子、齋藤 暢知、佐藤 浩之、山田 啓迪、幾瀬 圭、池野 充、菅沼 広樹、  
久田 研、清水 俊明 (順天堂大学小児科)

日齢2女児。生後初回排尿時から肉眼的血尿を認めた。腹部超音波検査で膀胱内腫瘍が指摘され、精査目的に当院に転院となった。膀胱内に2.2×1.4×3.0cmの辺縁整で血流に乏しい円形腫瘍を認めた。その後、日齢4に腫瘍に亀裂が入り、日齢7に凝血塊が尿中へ排泄された。腫瘍は日齢8に消失していた。その後症状再燃は認めていない。

6) 新生児期に診断しえた唇顎口蓋裂を伴った4p-症候群の1例

○川崎 健太、奈良昇乃助、中山 俊宏、高木健太郎、代田 朋子、羽生 直史、西袋麻里亜、  
菅波 佑介、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

在胎39週3日、出生体重2108gの女児。唇顎口蓋裂、心房中隔欠損を認め、G-band検査から4p-症候群と診断した。本症例は唇顎口蓋裂によって特徴的顔貌や哺乳障害などの所見を捉えづらく、疾患の想定に苦慮した。本疾患に合併する中枢神経障害は新生児期にみられることは少なく、積極的な染色体検査の重要性が改めて認識された。

休 憩 15:05—15:10

感染症だより 15:10—15:30 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 齋藤 義弘 (医療法人社団めぐみ会自由が丘メデイカルプラザ小児科)  
森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:30—16:40 (講演:60分+質疑応答:10分)

座長 幡谷 浩史 (東京都立小児総合医療センター)

DX時代の医療安全対策を考える

根東 義明 (日本大学医学部社会医学系医療管理学分野客員教授)

1999年に重大な社会問題となった医療安全対策は、多くの医療関係者の真摯な取り組みにより大きく改善してきた。RCAやP-mSHELLなどの原因分析や4M5Eなどの対策立案等の医療安全対策の理論化が一般化した。また、情報通信技術(ICT)やデジタルトランスフォーメーション(DX)の展開により、インシデントレポート収集・分析の情報化も進んでいる。本講演では、医療安全対策の歴史・原理・技術を総合的に概説すると共に、情報化社会の中で進むべき医療安全対策の未来について、私見を交えて解説する。

休 憩 16:40—16:45

### 第3グループ 16:45—16:55

座長 大門 尚子（慶應義塾大学小児科）

#### 7) 乳児期早期のカテーテル治療が奏功した Parkes Weber 症候群の1例

○石田 優香、浅野 聡、湯浅絵理佳、住友 直文、小柳 喬幸、古道 一樹、山岸 敬幸  
(慶應義塾大学小児科)

1 か月女児。出生時からポートワイン様皮疹、左上肢の肥大と同部の巨大動静脈シャントによる心不全を呈し、Parkes Weber 症候群と診断した。本症候群は一側肢の巨大で複雑な血管異常を特徴とし、心不全を生じた場合、肢の切断を要することもある。本例では、2 か月間にわたる計3回の段階的な血管内塞栓術により心不全は改善した。

#### 8) 乳児健診受診を契機に早期診断した Goldenhar 症候群の1例

○佐古 周平、飯島 正紀、櫻井 謙、宮田 市郎、大石 公彦（東京慈恵会医科大学小児科）

Goldenhar 症候群は、顔面や内臓などの多発奇形を有する、外科的介入も必要となることがある症候群である。今回、生後3か月で受診した3-4か月健診で指摘された外表奇形を契機に Goldenhar 症候群を疑い、介入可能な多臓器病変の早期発見に繋がった症例を経験した。Goldenhar 症候群の早期診断に対して、文献的考察を含めて報告する。

### 第4グループ 16:55—17:05

座長 眞下 秀明（東京都立神経病院神経小児科）

#### 9) COVID-19 に第Ⅷ脳神経ニューロパチーを合併した小児例

○水野 皓介<sup>1),3)</sup>、中尾 寛<sup>1)</sup>、諸岡進太郎<sup>1)</sup>、小池研太郎<sup>2)</sup>、早川 格<sup>2)</sup>、窪田 満<sup>1)</sup>、  
石黒 精<sup>3)</sup> (国立成育医療研究センター総合診療部)<sup>1)</sup>、  
(同 神経内科)<sup>2)</sup>、(同 教育研修センター)<sup>3)</sup>

11歳女児。頭痛、頸部痛、嘔吐、回転性めまいで発症し、SARS-CoV-2 PCR 陽性で、環軸椎回旋位固定を伴う COVID-19 と診断した。1か月弱の安静、牽引療法後も頭位変換時の回転性めまいと左高音域の聴力低下が持続し、COVID-19 に伴う第Ⅷ脳神経ニューロパチーと考えられた。小児 COVID-19 症例で難聴を伴うめまいの報告はなく、考察も交えて報告する。

## 【運営委員会だより】

1. 2022年3月の運営委員会はメール審議で行った。今回の講話会もLive Zoomのみの開催となった。参加者は121名。
2. 第681回講話会のプログラム編成について承認された。
3. 第681回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認された。
4. 第675回講話会（2021.9.11開催）の教育講演は専門医共通講習としてオンデマンド配信され、191名が前登録され186名に聴講頂き、183名に聴講証が発行された。
5. 日本小児科学会より東京都地方会宛てに「虐待による乳幼児頭部外傷（AHT）事業の診断等に協力可能な医師のご推薦」の依頼があったため、候補者の選定をした。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- 指定発言も設定可能です。（共同演者から指定発言は頂けません）
- 演題の締切は次のようになります。
- 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先のご発表となることがありますのでご了承ください。その場合、事務局よりご連絡します。

## 【座長・演者の先生方へのお願い】

- 2022年5月以降の講話会は来場およびライブ配信での開催となりますので、座長・演者の先生は必ず会場までお越しください。

## 【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します（原稿はワード入力力でe-mailにて事務局へ、ご発表後月末までにお送り下さい）。
- 参加した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短かな一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

## 【事務局よりご連絡】

- 2022年度の東京都地方会講話会は来場+Live Zoom講話会として開催させて頂きます。（新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては来場開催を中止する場合がございます。）
- 来場で教育講演の聴講単位を取得頂くためには、教育講演を全て聴講いただく必要があります。
- 来場での参加費は500円となりますが、学術集会の参加単位（iv-B貼付用）と専門医共通講習（医療安全）の聴講単位（ii貼付用）は、発行いたします。Live Zoomでの参加の場合には参加費は無料ですが両単位とも発行されません。2022年3月までの教育講演はオンデマンド配信で単位が取得できる様に準備ができましたらホームページ等でご案内させて頂きます。  
ご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム（会員専用）にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となりますが、ユーザー名：tokyoとPWD：jps-tが必要となります。ホームページの『開催のおしらせ』に参加URLを掲載致します。
- 2022年3月より事務局連絡先が下記に変更となります。  
Tel：048-706-7196・FAX：048-671-1796 メールアドレス：jpstokyo-office@ab.auone-net.jp  
どうぞよろしくお願い致します。

## Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows のみ可、Mac は不可) のみで受け付けます。Mac の PC 持ち込みによる発表はご遠慮ください。Powerpoint2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、第 2 グループの発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参してください。機械操作は当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いします。

## 動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。

## 第 677 回東京都地方会講話会教育講演 オンデマンド配信のご案内

2021年12月11日(土)に行われました第677回東京都地方会講話会教育講演の小児科領域講習単位は、講演視聴と設問解答後、合格者には聴講証がダウンロード頂けるようになります。

**演題名** 新時代に入った川崎病：

COVID-19 によってもたらされた新知見と急性期治療の展望

**演者** 濱田 洋通 先生 (千葉大学大学院医学研究院小児病態学)

**視聴方法** 下記Googleフォームよりご登録をお願い致します。  
(後日、視聴用 URL をお知らせいたします。)

<https://forms.gle/JrEuQX3Sg5tB2K9L9>

**前登録期間** 2022年5月10日(火)～5月17日(火)

前登録された方には後日参加 URL とパスワードをお知らせ致します。  
視聴期間は2022年5月24日(火)12:00～5月30日(月)12:00とさせていただきます。  
何卒よろしくお願い致します。  
教育講演の聴講単位はオンデマンド配信となります。

以上

2022年4月

【お問い合わせ】

日本小児科学会東京都地方会事務局

TEL:048-706-7196

e-mail: jpstokyo-office@ab.auone-net.jp